

町民不在の「嫌がらせ」?

町が町議会に滞納者リストを提出するようになったきっかけは十年前にさかのぼる。二〇一〇年五月時点の町税の滞納額は、県内の町村でワーストクラスの十七億一千八百万円。町は改善策の一つとして同年七月、町民税や固定資産税、介護保険料、水道料金などの徴収を二元的に担う対策室を設置し、その流れで町議会にリストが配られた。

町税徴収特別委の原田洋委員長(八八)は「町が真剣に取り組む中で、議会が全然関係ないんじゃないかと職員も違ってくる。議員はなぜ徴収が遅れているのか質問する必要があり、役立っていた」と強調する。

その一方、町民の一人はリストが別の使われ方をしていたと明かす。「町議選の際、滞納者リストを見て『こんな支援がある』と言って近づいたという話をよく聞いた。集票の道具だったのだろっ」

町民はどう思っているのか。小料理店を営む女性(六八)は「最近はお客さんもその話ばかり。弱みに付け込まれるような感じがして

気持ち悪い。やめてもらいたい」と唱える。長年、大手建設会社に勤めていた男性(八八)は「人は長く同じ場所にいるとその感覚に染まり、違和感に気付かない。変わってほしい」と語る。

町の温泉旅館で十年以上前から働いている男性(七三)は、東京で事業に失敗した経験があり、数十万円の町税を滞納している。「一日生きるだけで精いっぱい、払いたくても払えない。議員が滞納者リストを持っているのは正直ショックだった」と話す。

町議会の過剰な対応は懲罰後も続いた。定例会終了後に発行する広報紙「議会ゆがわら」十一月号で、全十六ページのうち四ページを使い「なぜ? 懲罰なのか」とのタイトルで特集。地方自治法に基づく解説や四回開いた懲罰特別委員会の経過のほか、土屋さんは書いていないのに、本人名の「陳謝文」まで掲載している。

東京で舞台関係の仕事をしてきた土屋さんは昨年三月、子どもの就学に合わせ自然環境豊かな地元に戻り、今年三月の町議選でトップ当選を果たした。県弁護士会に人権救済の申し立てをし、町議会を相手に名



土屋町議への懲罰について特集が組まれた「議会ゆがわら」

議会側「徴収遅れ改善に役立つ」

「既得権益守る空気 有権者が監視を」

やじを飛ばした都議から謝罪を受ける塩村文夏都議(当時) 2014年6月、東京都新宿区で



「懲罰も議会ゆがわらにも検討しているという。嫌がらせとしか思えなかった。行政、議会とも町民を向いて仕事をしておらず、残念でしょうがない。少しでも風通しの良い、明るい湯河原になるよう声を上げていきたい」(土屋さん)

特定の議員を攻撃するようなケースは各地にある。千葉県成田市議会で昨年、ペットボトルは委員会室に持ち込みオーケーなのに、女性市議(四七)が求めたマイボトルは「見た目が悪いから駄目」として禁止になった。塩村文夏参院議員(四七)は少数会派の東京都議だった二四年六月、「早く結婚

を」とやじを飛ばされた。こうした風潮に「男性が多い議会で、特に少数会派の女性ばかりかっても許される対象になっている。議会を変えようとする方策の一つは、女性を増やしてバランスを取る」と塩村さん。原田隆之・筑波大教授(臨床心理学)は「女性が軽視される背景には、男性が自らの優位性や既得権益を壊されることへの不安、恐怖がある」と解説する。

議会の体質は、どうすれば改まるのか。元千葉県我孫子市長の福嶋浩彦・中央学院大教授(地方自治)は「議会には、議員が互いの既得権益を守り合おうとする空気があり、それに反する人は攻撃を受けやすい。ただ、少数意見を大切にすることが民主主義。それを貫くために有権者が監視の目を強め、声を上げ続けていく必要がある」と訴えた。

エクスプレス

仕事柄、何百人もの地方議員を取材してきた。日々の勉強を怠らず、地元のために動き回る人がたくさんいた。その一方、議会で質問もせず、何をしているのかよく分からない人にも多く出会った。もしもそうした議員がいるなら、それをたずねるのは有権者しかない。(千)